

「職業サービス（職業奉仕）を考える」

2700 地区 PDG 廣畑 富雄（福岡西）



○ 日本の初代のガバナー、米山梅吉さんは、昭和11年、「ロータリーの理想と友愛」という本を出された。ポールハリス著“*This Rotarian Age*”の訳本である。その中で、“service サービス”は一切奉仕とは和訳せず、サービスとそのまま記しておられる。したがって Vocational Service は、職業奉仕ではなく、“職業（向上）サービス”と訳しておられる。なお現在入手できる「ロータリーの理想と友愛」は、米山さんの没後の出版であり、米山さんのサービスという訳は、すべて奉仕に変えられている。米山さんの本来の訳に忠実な訳本も、最近出版された。「ロータリーの理想と友愛一読本」であり、富田 PG（甘木 RC）の出版である。

日本の第一回目の地区大会での、米山ガバナーの発言記録がある。「翻訳も種々試みて見た。しかし翻訳は、大変難しい。第一、サービスという言葉、これが実に難しい。だから英語のまま使う方が良いと思われる」との発言である（1929年、前岡 PG 資料）。私も米国での永住権を得て、海外で永く生活したが、サービスの訳については、米山さんの意見通りだと思っている。

○ 一般に職業奉仕と言うと、分かり難いようである。例えば、職業を通じた奉仕なのだから、医師の無医村診療や、弁護士の無料相談などと誤解されやすい。‘奉仕’は無料で報酬は無い、と理解するからであろう。ちなみに職業サービスは、私の大変関心のある分野である。2007年に、永年開かれなかった RI 職業奉仕（サービス）委員会が再開され、私は第1回の日本の委員を務めた。2008年春のエバンストンの会議には、世界から6人の委員が集まり、日本の渡辺理事が RI 理事会とのリエゾン役をされ、大変有意義で活発な議論が行われた。この委員会の審議と、RI 理事会への勧告については、簡潔にまとめて、ロータリーの友誌、2009年1月号に寄稿し、掲載されている。

○ 英語のサービスという概念は、奉仕よりずっと広い概念で、相手をおもんばかり、相手のためになる行為である。“サービス”は奉仕とは異なり、有料が普通であろう。一例をあげれば、飛行機を降りるとき CA が、「また皆様にサービスできることを願っています」と必ずアナウンスする（例、We look forward to serving you in the near future）。これは「近い将来、皆様にまた乗って頂きたい」という意味であり、皆様に奉仕したい、無料で乗って頂きたい、そういう意味でないことは、言うまでもない。

○ 「職業サービス」は、端的に言えば、相手に対し、思いやりの心をもって接し、そのように行動することである。医師で言えば、患者さんへの思いやりの心、ビジネスで言えば、例えば売る方であれば、買う方への思いやりの心をもって接し、行動することである。ロータリーで有名なシェルドンによれば、このやり方でビジネスをすれば、長い目で見れば、永続的な顧客を獲得して、成功への道に通じるという。ここから有名な、ロータリーの二大公式モットーの一つ、He Profits Most Who Serves Best（現在はHe⇒One）、「最も良くサービスする者、最も良く報われる」が生まれた。より正確に言えば、ロータリーはすべての行動の基本に、サービス、思いやりの心を置くものである。

なお私的な事ではあるが、かつてこのモットーのHeがTheyに変えられ、複数形になっていた。それでは概念が違うので、2007年の規定審議会で、複数形から単数形に戻すよう私が提案、趣旨説明し、幸いそれが通って単数形になったのは、嬉しいことだった。

○ 日本の2代目ガバナー、井坂さんの月信を見ると、国際ロータリーの職業サービス委員長から、「職業サービスは人間の社会生活で最も重要である。だから職業サービスを鼓吹してもらいたい」、という連絡を受けたとある。確かに、誰もが職業サービスを重視すれば、より良い社会が生まれるだろう。例えばリーマンショック、これは昭和の初めの大恐慌以来と言われる金融パニックだが、リーマンブラザーズ社を始めとする、倫理感、公正さを欠いた住宅ローン（サブプライムローン）を底辺として起こった恐慌である。日本の株価は半減し、多くの銀行が吸収合併の憂き目に会ったのは、記憶に新しい事である。

○ 上記のリーマンショックの例は、あまり身近に感じないかもしれない。それで私の身近の医療の分野で、例を示してみたい。

東京の築地に聖路加国際病院がある。日本各地から患者さんが集まる有名な病院である。聖路加は、キリスト教の聖公会が創った病院で、患者さんへの愛を中心にした医療を行う。それが病院の繁栄につながったのであろう。（私が聖路加で勉強したのは、遠い過去の事になったが）

○ もう一つの例だが、福岡県南部の田舎に、戦争中ある家族が戦火を避け、疎開してきた。戦争が終わり、その一家の軍医が帰国し、その地に家族を訪ねる。後に福岡県でガバナーを務めた、横倉先生である。その地の村長さんか町長さんが、医師のいない地域であり、是非とどまって医療をしてほしいと懇望し、横倉先生は一時的に小さな診療所を開くことになった。

横倉先生の出身教室の教授は、入江先生である。私も非常に親しくして頂き、良く憶えているが、入江さんの診療のモットーは、「病む人の心を」であった。これはロータリーの職業サービスの理念に通じる。結局横倉さんの診療所は、やがて地域の中核を担う大病院となった。横倉さんは、田園地帯から中核都市の一つとなった同地で、医療面での功績などで、最初の名誉市民になられた。そのご息は、日本医師会の会長となり、さらに世界医師会の会長にもなられた。横倉 PG が病没され、その偲ぶ会で、「父は生涯四つのテストを守った人でした」と挨拶されたのが忘れられない。まさに横倉 PG は、「最もよくサービスする者、最もよく報われる」というロータリーモットーを、身をもって示されたと思う。

○ 話が前後するが、ポールハリスは職業サービスを定義し、Vocational Service: That is, in matters pertaining to the ethical conduct of his business or profession 「職業サービス（奉仕）：これは実業や専門職（医師、弁護士など）を倫理的に行うことである」と述べている。サービス、相手のために思えば、高い倫理性が必要なのは当然である。

○ 世界のロータリーは、激動の時代に入った。社会奉仕、特に発展途上国の援助が重視される。ポリオの根絶が成功した後は、発展途上国の多くの問題、貧困対策なども重視されよう（規定審議会での議論）。世界の会員数は、120万人と変わらないが、この10年間に、発展途上国では10万人増加し、いわゆる先進国では、逆に10万人も減少した。例会も、月2回で良い（理事会提案では、年1回でも良い）、会員資格も、誰でもよい、という事になった。ロータリー百余年の歴史と伝統を重視する日本のロータリーにとり、厳しい時代となった。

しかし良き伝統は保持し、それを世界に拡大して行きたいものである。ある RI 元会長が、毎年日本の地区大会にお見えになる。「日本の地区大会が、最も楽しい」と言われる。私も10年位前に、ボストンロータリークラブの例会に、十数年ぶりに出席した。世界で7番目に創立された名門クラブである。かつては会員数が、400人～500人だったのが、当日の例会出席者は10名あまりで、ショックを受けたのを思い出す。

日本のロータリーは、ロータリー100余年の良き伝統を、職業サービス（奉仕）を含め、胸を張って保持して行きたいものである。

(2017年11月20日)